



7.12 竹田を襲った豪雨災害



立ち上がろう竹田

災害現場の復旧作業にいち早く駆けつけたボランティアメンバーがいた。インターネットで(フェイスブックを活用して)呼びかけ、「何かをしたい」という、未知の個人の「意思」をつなぎ、かけがえない「絆」を生んだのである。すべては故郷・竹田のために。

※フェイスブック:インターネット上で人と人とのつながりを促進、手助けするサービスの一種

(写真提供:草刈淳)

災害お見舞い申しあげます

市議会を代表いたしました。この度の豪雨によりお亡くなりになりました2名の方々とご遺族の皆様にご挨拶とお悔やみ申し上げますとともに、被災された皆様方に衷心よりお見舞いを申し上げます。

今回の豪雨は降り始めから12日正午までの1日半の総雨量が、253.5ミリという竹田市における観測史上最大のものであり、これによって、竹田市に甚大な被害がもたらされました。

市では、現在、市長を本部長とする対策本部を設置し、被災した水道・道路等ライフラインの復興に最優先で取り組んでおります。私たち議員も市内各地の被災現場に向向き、被災された皆様方にお会いするとともに、今回の大災害の状況を目の当たりにして、被災地の一日も早い復興への決意を心に刻み込んでおります。

こうした中、大変に有り難くかつ心強いのは、連日、市内外の多くの災害ボランティアの方々にご支援を頂いていることです。被災された高齢の方はもちろんですが、手作業が多いだけに、こうした皆様のお力なしには復旧は進むべくもなく、熱い感謝の念でいっぱいでもあります。

今回の豪雨では、平成22年に完成した稲葉ダムによって、稲葉川流域の地域においては被害が少なかったことから、改めて玉来ダムの完成が不可欠であるとの思いを強くしたところでもあります。もちろん竹田市狭田十川地区の今後の防災対策の必要性の検証も欠かせません。

市議会といたしましては、玉来ダムの早期着工・早期完成に向けて議員一丸となって取り組んでまいりますので、市民の皆様のご協力をよろしくお願い申し上げます。

市議会議長 加藤正義

6 月 定 例 会

青年就農給付金事業

新規就農者の経営が軌道に乗るまでを支援

1人あたり150万円を14人分増額

青年就農給付金補助金(県費10/10)

平成24年度竹田市一般会計補助金2100万円増、農業再生協議会補助金429万9千円増、農産物・農産加工品流通対策会議補助金1700万円を計上。土木費では、災害防除事業費を1050万円増、消防費では、新消防庁舎建設に伴う移転補償費など施設費を3818万8千円増。教育費では、「サンチャゴの鐘」記念品制作委託料ほか文化財保護費を237万7千円増。そのほか、全科目にわたって人事異動に伴う人件費の組替や職員の給料カット分の調整を実施したこと、人件費総額で3893万6千円を減額している。

歳入では、国庫支出金950万4千円、県支出金2650万6千円、基金繰入金5602万8千円、諸収入917万3千円等を増額している。

平成24年度竹田市一般会計補助金2100万円増、農業再生協議会補助金429万9千円増、農産物・農産加工品流通対策会議補助金1700万円を計上。土木費では、災害防除事業費を1050万円増、消防費では、新消防庁舎建設に伴う移転補償費など施設費を3818万8千円増。教育費では、「サンチャゴの鐘」記念品制作委託料ほか文化財保護費を237万7千円増。そのほか、全科目にわたって人事異動に伴う人件費の組替や職員の給料カット分の調整を実施したこと、人件費総額で3893万6千円を減額している。

歳入では、国庫支出金950万4千円、県支出金2650万6千円、基金繰入金5602万8千円、諸収入917万3千円等を増額している。

平成24年第2回定例会は、6月7日から26日までの20日間を会期として開かれました。この定例会では、条例の一部改正、補正予算など20案件について審議を行い、それぞれ下記のとおり決定しました。

一般会計補正予算(第1号)などを可決

平成24年 第2回定例会(平成24年6月7日~26日)

議案・請願等の議決結果		
報告第1号	専決処分事項「平成23年度竹田市一般会計補正予算(第8号)」について	承認
報告第2号	専決処分事項「竹田市税条例の一部改正」について	承認
報告第3号	専決処分事項「竹田市都市計画税条例の一部改正」について	承認
報告第4号	専決処分事項「竹田市国民健康保険税条例の一部改正」について	承認
議案第64号	平成24年度竹田市一般会計補正予算(第1号)について	可決
議案第65号	平成24年度竹田市立こども診療所特別会計補正予算(第1号)について	可決
議案第66号	平成24年度竹田市簡易水道事業特別会計補正予算(第1号)について	可決
議案第67号	平成24年度竹田市農業集落排水事業特別会計補正予算(第1号)について	可決
議案第68号	平成24年度竹田市浄化槽整備推進事業特別会計補正予算(第1号)について	可決
議案第69号	平成24年度竹田市水道事業会計補正予算(第1号)について	可決
議案第70号	竹田市固定資産評価員の選任について	同意
議案第71号	竹田市教育委員会委員の任命について	同意
議案第72号	竹田市企業の育成及び誘致促進に関する条例の一部改正について	可決
議案第73号	地方自治法施行令第152条第1項第3号及び同条第4項第2号の法人を定める条例の制定について	可決
議案第74号	竹田市県営土地改良事業施行に伴う換地処分等の評価委員会条例の一部改正について	可決
議案第75号	竹田市道路占用条例の一部改正について	可決
議案第76号	竹田市スポーツ振興審議会条例の一部改正について	可決
議案第77号	大分県後期高齢者医療広域連合規約の変更に関する協議について	可決
請願第1号	義務教育費国庫負担制度2分の1復元に関する意見書の提出を求める請願	採択
意見書案第3号	義務教育費国庫負担制度2分の1復元に関する意見書	可決

一 般 質 問

8 議 員 が 登 壇

市 政 を 問 う

6月12日(火)4名
13日(水)4名



竹田市議会では、一般質問は答弁を含め1人60分となっています。内容は、各議員本人が700字程度にまとめたもので、質問順に掲載しています。



今後の財政運営と

職員待遇の現状について

吉 竹 悟

問 職員給料カットを継続しているが、なぜ国家公務員給料より(ラスパイレス指数)高いのか。

総務課長 昨年1月に、職員給料の級別構成の見直しと、給料表1級から6級までの引き下げをした。カット率を変更する必要が生じたことが一つの要因である。また、引き下げ時点の給料を保障をする必要があったことも要因である。今後とも、適正な給料水準の確保に努める。

問 景気低迷の中、税の収納状況はどうか。また、不納欠損についての考えは。

税務課長 税の賦課は、「公平・公正性が基本」である。景気低迷のため、滞納が年々増加傾向にある。平成23年度課税調定済額の34億500万円に対し収入済額は32億6100万円。収納率は95・8%。4・2%は滞納繰越分としてこれまでの繰越分に合算される。

不納欠損金は、法に基づき時効となったもの。徴収可能な滞納金は、預金、動産、不動産などを差し押さえ、厳しい滞納整理を行っている。今後、も適正な処理をしていく。

問 現在もある「わたり」を是正するべきではないか。

総務課長 合併後、高年齢の職員が多いことと、新規採用を抑制したため、一部に課題が残った経過がある。是正に向け早急な取組を行いたい。

問 市内の商店のために職員給与カット分や、住宅・勤勉・残業手当等の一部を市内商店のみ使用できる商品券にできないか。

総務課長 地方公務員法第25条に、「給与は、法律又は条例により特に認められた場合を除き、通貨で支払わなければならない。」とある。商品券購入の取組は、地域経済の活性化に繋がる有効な手段であるので、商工会議所など関係団体との協議も含め検討していきたい。



商工会議所発行の地域商品券

※ラスパイレス指数：国家公務員行政職の俸給月額を100とした場合の地方公務員一般行政職の給料の水準を示す指数



(株)川崎重工業からの無償譲渡用地の有効活用について

岩屋 千利

問 当該地に市の農村回帰の取組と連動させた宅地や農地の造成、太陽光発電等関連企業の誘致、更には円滑な推進のため検討委員会等の設置を。

市長 川崎重工業の跡地は願ってもない好条件で取得できたわけで、指摘のように、市の農村回帰の取組と連動した各種施策を展開する。検討委員会等の設置は私の対話行政の取組の最たるもので多くの方の意見を拝聴する中で進めていきたい。

企画情報課長 当該地は県都大分市にも近く通勤が可能、自然環境にも恵まれており、移住・定住の拠点地域として、更には市独自の太陽光発電や関連企業の誘致等も考えられる。

問 少子化等を主因とする市の人口減の対策と市長の基本的な考えは。市内の小規模校における部活動や過疎化がもたらす自治会活動等の現状と課題は。

市長 過疎化対策は市の喫緊の課題であり、就任以来「市民とのあったか対話行政」を基軸として政策のテーマを明確に示す中でそれぞれの施策に対峙してきた。「農村回帰宣言市」

の取組もその一つで、支援センター開設以降、32世帯63人の方を市内に迎え入れた。このほか、働き場所の確保は重要課題の一つで、今後とも積極的な企業誘致に努める。

学校教育課長 小規模校の部活動は全国的な課題であり、複数校合同のチームも一部認められたが、引き続き大会規定の緩和の働きかけをする。

総務課長 自治会活動に対する市の職員の積極的な参加協力は以前から周知している。今後は民間の事業主等にも働きかけをしていきたい。

問 国民宿舎「直入荘」については存続の方向性が示されたが、その後の経過は。

市長 国民保養温泉地の中核施設としての役割、長期滞在型温泉療養拠点施設としての役割等を視野に入れながら対処していきたい。



市役所玄関前にある故 立松和平さん直筆の看板

問 滞納及び未収の過去3年間の状況について、財政課長としてどう考えるか。

財政課長 平成22年度末で滞納繰越額総額は8億800万円強になっており、副市長をトップに滞納債権対策会議を設置して、徴収目標を定めているが目標には達していない。

問 滞納及び未収の内訳と3年間の状況、不納欠損について、今後どう処理するのか。

税務課長 平成23年度末は一般税3億900万円、国民健康保険税4億100万円、介護保険税2200万円等あり、不納欠損も平成23年度末7800万円位ある。県職員の派遣指導を受け、徴収率向上に向け、方策を講じ積極的に取り組んでいきたい。

問 徴収に係る経費や回収率(効果)の問題を考えたことがあるか。

副市長 計画を十分に行い努力しているが、経費等の調査等は行っていない。

問 各課長(農林整備課長)(福祉事務所長)(建設課長)(水道課長)(環境衛生課長)(学校給食調理場長)に未収と解決策をお伺いしたい。



滞納及び未収が8億超に

大塚 哲之

農林整備課長 納付についての意思確認をし、分納等を取り入れている。

福祉事務所長 保育料の未納が平成22年度末350万円強あり、卒園者については、児童手当等の支給時に納付をお願いしている。

建設課長 住宅使用料の未納が平成22年度1600万円あったが、県に委託して平成23年度では120万円位減、収納率も3%増えている。

水道課長 簡易水道使用料の未納が平成23年度末で1900万円強あり、債権調査ができていない。

環境衛生課長 浄化槽等使用料の訪問徴収を実施しているが困難をきたしている。

学校給食調理場長 給食費の未納が平成22年度末で700万円強ある。保護者の責任意識が低下しており、法的措置も視野に入れている。

問 市政の最高責任者である市長は、状況をどのように考えているのか。

市長 自主財政の確保であるので真剣に取り組む。滞納債権対策を強化し、積極的に徹底して徴収業務を進めていく。



教育・健康福祉・

環境の施策を問う

阿部 雅彦

問 3年目に入った教育のまちTOP運動の取組について

先ず、本年度の方向と重点課題は。

教育長 竹田らしい教育を保護者や地域との結びつきをより大切にしながら、全学校で組織的に取り組みたい。また、生活と学習のトップ10・協調学習・交流学习等の成果を全ての学校で交流し合いたい。

問 学校統廃合を防ぎ、複式学級の課題を解消するための交流学习（T授業）の取組は。

学校教育課長 本年度は、実践校同士の出会いの場から教科学習にも踏み込んだ少人数ではできない学びの形をつくる。また、教職員に事前の打ち合わせ時間の確保や日程調整、スクールバスや机等の授業環境整備における改善をしていきたい。

問 国の教育予算の在り方について。
教育総務課長 財政の厳しい地方が教育予算のやりくりをしている中、義務教育費国庫負担制度の堅持・復元について国に要望していきたい。

問 健康・福祉・環境の取組は。
まず、生き生き興起雇用創出大作戦のこの1年の事業の状況は。



教育のまちTOP運動の授業実践風景

企画情報課長

3つの分野で多くのセミナーや視察研修を実施し、起業や就業する市民も出てきている。順調に事業推進ができています。

その他、商工観光課・保険課・健康増進課・福祉事務所・農政課・環境衛生課の各課長より今後も積極的な連携をしていくとの答弁があった。

問 今後の市民の健康づくりは。

健康増進課長 市民アンケートの調査結果を基にした実践をしていく。

問 太陽光発電構想はどんなものか。

企画情報課長 自然エネルギー太陽光発電については、緊急災害時の補給電力や街灯の整備等の可能な場所も視野に入れながら、今後の調査・研究をしていきたい。



道路整備状況について問う

佐田 啓二

問 中九州横断道路（大野〜竹田間）の工事進捗状況と早期完成に向けた竹田市の取組は。

建設課長 竹田〜大野間12.3kmを暫定2車線で工事をしている。工事の進捗率は全体で55%、用地買収は大野〜朝地間が95%、朝地〜竹田間が77%となっている。現在、大野〜朝地間6.3kmを平成26年度の供用開始に向け集中的に進めている。残り

の朝地〜竹田間6kmは平成28年度供用開始をめざし用地買収を進めている。今後は、竹田までの早期完成と竹田〜荻間約15kmの整備区間への昇格、荻〜波野間の調査区間指定に向け、引き続き強力に要望を続ける。

問 市道、穴井迫萩線は通行量が多い。また、企業誘致した際、道路改良は条件であったと思うが、改良が進んでいない。今後の方針は。

建設課長 本路線の重要性は十分に認識している。前提条件を再調査して事業の再開に向けて検討していく。

問 市主体の事業として、パソコン教室を開催すべきと思うが、また、施設の不備はないか。

生涯学習課長 平成24年度は4か所



地域高規格道路（中九州横断道路）

で分館事業として開催している。今後は、早い時期に募集することが必要と考える。また、無線LANが届かない教室があったので改善する。

問 岡城跡公開活用検討委員会の検討の進捗状況について。

文化財課長 現在、商工観光課で「岡城跡文化観光施設基本構想・基本計画」を策定中。①ガイダンス施設と賑わいの場の創出②登城方法③景観形成について、平成24年度末策定に向け検討している。

※ガイダンス：案内、説明



小学校統廃合計画について

渡辺 克己

問 文部科学省の類型にあてはめれば、市内の全ての学校が適正規模校でなく過小、若しくは小規模校である。このことについてどう考えるか。

教育総務課長 少子化は全国的課題であり市も厳しい状況にある。長期総合教育計画懇話会の方針に沿って学校の再編を実施してきたが、その後小規模校が現存することから統廃合を視野に入れながら地域に根差した学校教育を考えていく。

問 学校間でクラス編成に差がありすぎる。30名で一クラス、複式学級でありながら4人のクラスもあるが、教育水準・環境が平等であるか、学校間格差があるのではないか。

学校教育課長 単式、複式共に学習指導要領に則り授業を実施しており、単式・複式学級に格差はない。人数の差による教育環境と教育効果についての優劣は一概に言えない。2複式学校に学年別指導ができるよう市費単独教員を配置している。

問 「平成23年度市町村学力向上戦略支援事業に係る竹田市の取組」の中では、算数・国語共に県平均を下回っている。原因は。



子ども一人ひとりに寄り添った指導・支援を

学校教育課長 活用力を問う問題では質問の場面説明が長く、理解できていない。時間内ですべての問題に取り組みができなかった等、テスト形式に慣れていなかった。活用力・応用力は生活実態が反映されるため、生活のあり方にも関係すると考える。

問 2030年には大半の学校が複式となる。児童数が年々減少傾向にあるが、統廃合へ向けて地域と話し合いを始める必要があるのではないか。

教育長 複式・2複式でも教育に差はないと考える。教育のまちTOP運動に教職員一体となって取り組んでいるし、その成果も感じている。今後学校の歴史や地域の意見に沿った教育をしていく。



中心市街地活性化構想について

渡辺 龍太郎

問 昨年、竹田地区活性化推進協議会(竹田商工会議所)から要望のあった「構想」は現在どのように取り扱われているのか。その進捗状況と、新図書館建設、幼稚園移転と建設、賑わい創出の交流施設の状況は怎么样了のか。

企画情報課長 現在、エコミュージアム構想や、城下町再生プロジェクトを構成する竹田市の市街地を中心としたパズルピースのマッチング的な作業を進めている。城下町再生を構成する資源と、配置すべき公共施設や空き店舗を含め、連動した構想を検討している。新図書館の全体構想、幼稚園移転に伴う計画についても今年度中に着手をしていくように進めていく。

問 構想を提案してから後、推進協議会への情報提供がなされていない。ハードやソフト事業の今後を考えると、情報交換とスケジュールの明示が必要ではないか。

企画情報課長 *タイムテーブル、構想について情報が伝わっていないことについては今後は正していく。但し、それぞれの過程の中でクリアし

なければならぬ問題も含まれており、そのことの協議を重ねながら同意を取り付けることを先行させていく。

問 構想の次は基本計画作成となるのだが、どう考えて進めるのか。

企画情報課長 担当窓口となる商工観光課を中心に計画策定を進めていくこと、時期については、今年度内というところで協議を進めている。



竹田幼稚園移転予定地の竹田小学校グラウンド

*パズルピース:ジグソーパズルなどを構成する部品。ここでは様々な施設と、その中に納める機能や諸々の物
*タイムテーブル:予定



新図書館建設について

井 英 昭

問 建設場所は現在の竹田幼稚園に決まった。計画を策定中だと思っが、どのような段階か。

図書館長 基本構想策定についてはコンサルに委託する予定。庁内プロジェクトである新図書館建設推進会議を立ち上げ、コンサル発注のための仕様書作成の確認をした段階。5年、10年先のまちづくりも視野に入れている。コンサルが決定した後具体的にしていく。

問 市民が計画策定にかかわる余地はあるのか。

図書館長 基本構想策定委員会(仮称)に市民の方にも参加していただき、たたき台である原案に意見を出していただく予定。パブリックコメントでも意見を集める予定。

問 新図書館では専属の図書館長を置くのか。

教育長 新図書館の魅力や理念はもちろん、竹田市の魅力を伝える専任館長の配属は当然のことと考えている。

問 現在の図書館は残すのか。壊してしまうのか。
教育長 現図書館は大正14年に建設



大正14年に建設された現在の市立図書館

された。保存を求める声もあるので、今後十分に議論を重ねていきたい。
問 現図書館は駐車場が狭い。駐車場用地を想定して、周辺の民有地を取得する予定は。

図書館長 現時点での答弁は控えない。
問 運営方法は直営か、指定管理方式か。

図書館長 基本構想で示す。現段階では答弁できない。

問 竹田幼稚園の移転プロセスは。
図書館長 新園舎を竹田小学校のグラウンド内に建設するが、スケジュールは今後具体的に示す。

※コンサル：企業経営などに関する助言や指導を行う専門家（コンサルタント）
※パブリックコメント：広く公に意見・情報・改善案などを求める手続

力の源カンパニーがプロデュースする

「麵の街たけた構想」

6月13日、議員研修会を開催、講師「力の源カンパニー・一風堂」の河原成美社長は次のように語った。

弊社がプロデュースした竹田の中華そば「こつとん」が入田にオープンした。まず、このことから話したい。

若い頃、宮沢賢治原作の「イーハトーブの赤い屋根」という映画を見た。若者がやがて働きに戻ろうとするとき水も緑もきれいで身も心も癒す村があった。若者はその村のことをいつまでも忘れない。僕は、そんな理想郷をつくるぞと心に誓った。その場所をずっと探していた。

そんな折、大分の和太鼓T.A.Oを知った。見に出かけた。何時間も遅れて着いた。でもT.A.Oは、我々3人を太鼓の大演奏で迎えてくれた。感動した。我々もこんな場所を探しているんだと話す、それならすぐそこにあるよと案内してくれたのが、夕日が沈む「くしふるの大地」だった。

そこに何年かかけて研修施設をつかった。ここを拠点に、地域貢献のために探し当てたのが、河宇田湧水の傍の小さな古い農産物即売所の「こつとん水車」だった。

水がきれいで、食材も多くある。人がやって来るし、地域の人もやさしい、とここに決めた。隣に、美味しい中華そば屋があれば、野菜も売れて地域のお役にたつだろうと。

店舗の建設費・商品開発費・店舗運営・店員研修などすべて無償で提供。運営は「こつとん水車の会」。時間によっては、行列ができる。開店一か月半で一万人。ご祝儀心もあるかもしれない。これらが本番。地元のみなさんと力を合わせたい。

水がいいと食物は美味しい。竹田の名水を生かして、これから、2号店・3号店と増やして、第二のふるさと竹田に少しでも力になればうれい。

僕たちにお金はないが、美味しいチヤンポン・そば・餃子・ラーメン・うどんと麵の作り方のノウハウは十分あるつもり。既存店舗や出店のサポートを惜しみなくやりたい。

竹田にあるのは何か。岡城・水・温泉・久住高原・能・神楽・竹と灯籠。みんな本物ばかり。そこに、麵の街ができれば、竹田はもっと輝くのではないか。是非、そのための勉強会でも立ち上げてほしい。我々は、いくらでも協力したい。それが、僕たちの「麵の街たけた構想」と熱っぽく語った。



一風堂社長 河原成美氏を招いて

議長 加藤正義



△ボランティア作業に参加いただいた由布市議会の皆さん
 ◁被災後の各地の状況

市議会議長会表彰

去る5月23日に開催された全国市議会議長会定期総会において、阿部重幸議員が議員として10年間市政振興に貢献した功績により表彰されました。



大分県事業研修会(6/26)



今年度も竹田市を所轄する県関係機関の皆様の協力をいただいて研修会を開催しました。

お知らせ

「市民との意見交換会」で皆様からいただいたご意見は、9月発行の市議会だより特集号でその対応状況を詳しくお伝えする予定です。

※次の定例会は9月上旬開催予定です。

あとがき

謹んでこの度の大水害で犠牲となられた方のご冥福をお祈りするとともに、被災者の皆様にお見舞いを申し上げます。

またも悪夢が竹田を襲った。稲葉ダムが完成し、玉来ダムが足踏みさせられている間隙を突くように。未曾有の雨量とはいえ果たして悪夢か、人災か。救いは県内はもとより遠く仙台をはじめ多くの皆さんが救援に駆けつけてくれていること。表紙の写真にあるようにボランティアの皆さんには感謝の言葉もない。放射能汚染で土地を追われた方々に比べれば、我々はまだこの地で復興に取り組める。希望の明日はあるのだ。一刻も早く立ち上がろう。

市議会だより

編集委員会

- 委員長 岩部 雅彦
 副委員長 阿部 啓之
 委員 阿部 啓之
 委員 佐田 雅彦
 委員 目黒 啓之
 委員 森田 雅彦
 委員 吉田 啓之
 委員 和田 雅彦
 委員 加藤 啓之
 副議長 正幸 義生
 議長 加藤 啓之

